

プロジェクトリスクメモ	作成日付	更新日付	作成者	承認者
ID:2-3s-00300				

リスク内容	対応	リスク顕在化時のプロジェクト QCD への影響	評価
<ul style="list-style-type: none"> 要件定義フェーズの遅れにより設計製造フェーズやテストフェーズの期間が短縮され、工数が局所的に偏った状態になる可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> 要件定義フェーズが遅れないよう、進捗管理を着実にを行い、必要に応じて情報システム部およびパートナーのパワーシフトを行う 納期遵守のため、要件定義フェーズが遅れた場合は、要件を削ることを検討する 	(D) 設計製造フェーズの工数の圧迫 (Q) テスト不足による品質低下	
<ul style="list-style-type: none"> 既存システムの改修と新システムの開発が同時進行となるため、一方の進捗状況に影響されて、もう一方の進捗が遅れる可能性がある（両方ともプロジェクト上必須のため、2 つとも外すことはできない） 	<ul style="list-style-type: none"> 要件定義フェーズで影響範囲の洗い出しをしっかりと行い、両者の開発・テストは遅れが出ないように、きっちりと進行する 品質、納期的に問題が発生した場合は、要件を削って対応する 	(D) サービスインの遅れ	
<ul style="list-style-type: none"> 業務フローの変更に加え、コンテンツの制作ボリュームの大幅増が予測されており、十分なフォローがないと現場の混乱を招く恐れがある 	<ul style="list-style-type: none"> 早期に教育計画、運用計画、移行計画をスタートさせ、綿密な計画を立てる 	(Q) サービスイン後の制作業務の混乱	
<ul style="list-style-type: none"> パフォーマンスには十分注意した上で開発を行うが、ユーザーテスト時に問題が発覚した場合、チューニングを行う時間的余裕がない 	<ul style="list-style-type: none"> パフォーマンスにシビアな画面（処理）については、設計段階で SQL の机上チェックを行い、場合によって実検証を行う 	(Q) サービスイン後の業務への影響	
<ul style="list-style-type: none"> マスタ情報のクリーニング方法が具体化していないため、現状では想定していない移行一時費用が発生する可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> クリーニング方法の検討を早期に実施することで作業ピークをなだらかにし、外部コストの発生を抑える 	(C) 総投資額の増加	
備考			